

特249

794

和六年十二月二十五日印刷
和六年十二月二十日發行

歐洲視察談

日本交通協會

343

178

始



特 249
794



昭和六年十二月二十日

歐洲視察談

法學博士 松波仁一郎



はしがき

本冊子は、曩に本會第八回役員會開催の砌、本會評議員、法學博士松波仁一郎氏の歐洲視察談を速記したものであります。

博士は本年五月廿五日、ベルギー首府ブラッセルに於て開催せられたる萬國學士院總會に、本邦政府代表として出席せられ、其途次に於ける諸々の御所見につき説明せられたもので、最近に於ける歐洲の事情につき啓發する所不尠。仍つて茲に梓に附し會員各位にお配りする次第であります。

昭和六年十二月十八日

日本交通協會

歐洲視察談

法學博士 松波仁一郎

○

交通のことは専門家の視察談に委せて、私は全體の視察所感を述べることに致しまして、幾分か交通の事に觸れる積りであります。歐洲巡回中私を刺戟したことを少しお話し申し上げます。

一 西比利亞鐵道

先づ露西亞へ行つて感じましたことから始めます。これはよく／＼私が面白

二
いと思つた事であります。

私は露西亞のモスコーへは五月一日即ちメイデイに入つた。態々其日に行く積りではなく偶然に其日に入りました。午後二時で丁度今の先大觀兵式が済んだ所だと云ふ頃に入つたのであります。實は大使館の人が迎へに来て呉れることを豫期して居りましたが、汽車が二時に着いても来てゐない。段々外の乗客が立ち去つてプラットホームが空になりかけたから、自分で大使館へ行かうと思つた間に、大使館の天羽參事官初め書記官等が来て呉れて「大變お待たせしました。大使は大使館でお待ちして居られます。實は汽車時間表にては二時に着くことは知つて居りましたが、何時も三十分ほど遅れるので、今日も遅れる積りで居つた所が、今日は本當にチャンと二時に着いたので、一寸狼狽して参りました」と云ふことであつた。平常は遅れるが今日は正確といふ。幸ひいゝ時に入つたのである。而し若しそれを聞かなかつたならば世人に對しシ

ペリヤ鐵道は大變正確だと云ふやうになつたでせうが、大使館の人々から迎ひの遅れた説明を聽いて何時もは正確ぢやない。今日は稀に正確だと云ふことが解りました。即ち私等は鐵道に對して好運であつたのであります。

西比利亞鐵道に乗ることに就ては色々脅かされ、斯うしろ、あゝしろと種々のことを言はれましたが、乗つて見ればそれほどでもない。ハルピンで僅かな罐詰を買つてそれで済みました。列車にてはいゝ具合に食事は日に一度ありまして夫れを食へば、後はもう罐詰位でやれる。又汽車に乗つて居るときも氣持よく、東京から持ち込んだ書類も汽車の中で讀んで多少調査研究が出来ました。汽車が停車場に着くと汽車ボーイは直ぐに一方の入口を閉し、而して他方の入口には番人が居るから安心して車外に出られたので、案外うまくやつております。併し又見様に依つては一方の口を閉ぢなければならぬと云ふことは、矢張一部の不安があるからだと云ふことにも考へられる。一步進んで兩方開けつば

なしにしても、安心だと云ふ所まで行かなくちやならぬと思ふ。

四

二 露國の大觀兵式

モスコーに入つたとき、今大觀兵式が済んだ所だと言ふので、自然觀兵式の話が澤山出ました。其話は軍人の會か何かであれば、多少詳しく申上げるのでありますが、此席では端折つて申します。露國の大觀兵式は洵に立派なものだ。露西亞の軍備は偉いものだ。多くの兵器を有し、日本にもなささうな新機械をも持つて居る。飛行機も多く又巧に之を飛ばして居る。あれだけの飛行機を十分に利用し、滿洲里方面や浦鹽方面に確りした根據をきめて進出すれば、支那は勿論、日本も随分考へなければならぬと云ふことです。露西亞は軍備をしつかりしたのは軍人を非常に尊ぶのである。勞農省よりは軍人の方を多く尊ぶ。何故かと申すと軍隊は強くせねばならぬ。夫には軍人を優待しなければならぬ。

らぬ。精神的にも優待し又身體的には之を強くしなければならぬ。仍ち軍人を賞めて喜ばせ又良い着物を着せ、美味しい物を食はすのである。其結果であらう。私がモスコーで見た兵隊は皆綺麗に整つて居つた。其時に買った繪は此處に持つて來て居りますが、どうぞ御覽下さい。

三 モスコーのデモスツレーション行列の突破

斯くして先づ午前に舉行した大觀兵式の模様を聞き、次で大使に晝食をよばれ終つて市街を見物しようかと云ふことになつた。而し夫れは出来るかどうか、天羽參事官が停車場に迎に來て呉れたとき「實は良い宿屋を取つて置きましたが、今日は勞働者のデモスツレーションの日で、今市中は其用意で一杯になつて其處へ行けないから、別の宿屋に願へますか」と云はれる。無論それで宜しいと云つた。十二時過に大觀兵式が済んで、直ぐデモスツレーションに掛

るのであつた。夫で殆んど凡ての道は往來止になり、普通の自動車は通れない。行列の人数は二百萬と號す。

二百萬と號するが、私は夫れ程はあるまいと思ふ。而し半分にしても百萬、其五割増にして百五十萬、さうするとモスコイの人口の半分位になり、多過ぎる様だが行列員は地方からも集つて来る。政府からは成るべく多くの人を集めて示威運動を盛んにやれと云ふ命令を出して居るから、續々集つて來たのであります。我々が日本流に考へると、デモストレーション——メイデイなどと云ふときは、直ちに何十人の檢束とか、上野の喧嘩は盛だらうなどと喧嘩のことを思ひ出す。そこで日本でもメイデイには喧嘩が、出來て十人や二十人は傷つく。況んやモスコイの如きデモストレーションの本場になつては、百人も二百人も傷くであらうと一寸思ひますが、夫は當つてゐない。

露西亞は勞農國であるのだから、勞農民衆と勞農政府の官民が一致して居る。

政府からしてデモストレーションしつかりやれ。民衆も盛に之をやれ。又警察も盛に夫れをやらせよといふので、日本などとは全く觀念が違つて居る。即ちデモストレーションは大祭であります。

こう云ふ大行列があるのだから、廣田大使が私に向つて街を見物しようと言はれたとき、私は「見物と言つた所で實際出来るでせうか。」と問うた。「やりませう。折角先生がお出でになり、而も僅か一日のお泊りであるから、今日町を見なければ見られないから」と親切に言つて呉れるので、「成程、そうだ。それぢや一つお願しよう」と言つて、廣田大使と通譯と書記官と四人で大使の自動車に日の丸の旗を立て、出て行つた。

さうすると、何しろ百萬から百五十萬人の大行列ですから、大したものだ。勿論一人や二人づゝで進むのでなく、四人づゝの四列縦隊である。夫でも三十萬か四十萬の四人隊が縦に並ぶことになるから、非常に長い。従て多くの街を

蜿々として進むやうになるのである。ために我々の自動車はどうしたつて其行列を横切らねばならなくなる。其時はどうするか。曰く其時は巡査が街に澤山居り吾々の車の來るのを見てパツと行列を止めて呉れる。そこでそれを突破して進む又行列の蜿つて行く列にぶつつかる。警察官が又直ぐに行列を止めて我々を通ほして呉れる。又或所に進むと其街が往來止めになり、往來止めの繩が張つてある。そうして其左右に番人が居り、又警察官も立つて番して居る。一人も通さない様にして居るのである。それへ向けて吾々の自動車が行くのである。其車が前方から彼等に見えるので、彼等は直ちに兩方から繩を弛めて地に下ろしてくれる。其處で此方に踏んでずつと通つて行く。又さう云ふ處に出會ふと、又繩を弛めて呉れる。之を通ると、又行列にぶつつかるが。

我々の行列にぶつつかるとき何時も其處に警察官が居れば宜しいが、偶には警察官吏が居らないときにぶつつかる。さうすると、デモスツレーションの小

隊長とか、分隊長とか云ふ者が居つて、パツと列を止めて呉れる。列が空くからそれを通る。所が場合に依つては警察官も居らず、分小隊長も居らぬことがある。何分長い行列で、假りに百人づゝの分隊とすると我々の自動車が其分隊の切れ目の所へ行けばいいが、相憎隊の真中にどんと突き當るが如き有様になることがある。其時はどうなるか。曰く行列の連中が自身に自制して自らパツと開いて我々を通ほして呉れる。我々はさう云ふことを又二三度やつた。

そこで私は終に「廣田君餘り氣の毒だからもう止さうぢやないか」と言ふと「併し折角此處まで來たのだから、せめて雀ヶ岡まで行かう」といふ。雀ヶ岡と云ふのはナポレオンが露西亞を征伐してモスコイに來たり、此の丘から町の有様を見てもう仕方がないから退却しようと思つた有名な歴史的の岡である。廣田君は其岡に行けばモスコイの街がすつかり見えるから、せめて其處まで行きませう」と云ふので私も之に同意して又進んで行きましたが、こんなことを

して労働者の大行列の七つも八つも切つたのであります。

之れは日本であつたらどうであらう。日本人の大行列を露國の大使の自動車
が數回切つたらどういふことになるであらう。想像して御覽なさい。

四 革命博覽會見物

市街及び雀ヶ岡の見物が濟んでから、大使館付武官有馬海軍少將に會つたが、
「一つ博覽會に行きませう」といはれる。私は「博覽會は眞平です」といふ「い
や之から行かうといふ。博覽會は他所では見られない博覽會です。革命博覽會
と云ふので、色々革命の事を教へるのである。革命を教へる博覽會は他所には
ありませぬから見て置きなさい」といふ「さう云ふ珍らしいものならば行つて
見ませう」と云ふので、行つた。

成程革命を教へるやうな博覽會は珍らしい。之を見て面白かつたが同時に面

白いと思つたものは、露國人民が日露戦争のときに、革命を企てをつたことに
關する書き物や品物である。それを見て、又明かに知つたことがある。

夫は日露戦争を今の露西亞人が思ひ出して、日本に敵意を挿むで居なかつた
ことである。彼れ人民思へらく、日露戦争は日本と露國の官憲の戦ひである。

民衆が官憲に壓制されている／＼やつたが政府を好まない。之を轉覆しやう
と欲して居る。故に日本との戦争がもつと長く續いて呉れたならば世界戦争の
時を待たずして革命が出來たのに惜しいことをした。併し日本が露國官憲と戦
争をやつて呉れたお蔭で革命は割合に早くなつたと喜んで居る位だ。私は前々
そんな話を聞いて居つたが、此度革命博覽會を見て成程と思つた。前に聽いた
話の意味がはつきり解つた。同時に又日本の悪口や批評や色々のものを見て、
正しき日露戦役史を書くには、十分に露國の方面から見なければならぬと感
じ大變い、博覽會を見た。唯面白いだけでなく學問上又政治上、種々役立つも

のを見たと思つた。

其博覽會に行く時には今度は海軍の方の自動車だから、軍艦旗の小さいものを立て、ずつと進行したが矢張り何の苦もなく諸所を通れた。夫れで又是が若し日本だつたらどうであらう。日本の國際日に百萬の人が行列して往來止めをやつたときに露國大使館の人が露國の國旗を立て、行列にぶつかつて來たらどうするだらうと考へ、歸朝後の今日でも尙疑問にして居る次第です。強いて推測すると悪い推測になるから申しませぬが、兎に角知つて置くべきことは新しく露西亞大使館に來た人が、日本の行列を切つても必ずしも、常に惡意ぢやないと云ふことを考へてやらなければならぬことである。

五 一留は一圓十錢か唯の八錢

露國に於ける行列の突破、革命博覽會の見物までは先づ宜かつたが露國を出

て波蘭に入らんとする税關で酷い目に遭つた。それは無理に金を取られたことでもあります。先づ以て露國へ入るには日本の圓を露のルーブルに換へねばならぬ。其時の相場は一ルーブルを何程と見積るか。一圓と見るか。五十錢と見るか。十錢と見るかの問題である。

日露兩國は北海の漁業に關して、之を争ふた難しい問題である。日本人は露國に漁場の借區料を納めねばならぬ。それを圓で納めるときには一留を何程とするか。露國は一ルーブルを日本の三十五錢にしろと言ひ、日本は三十錢にしろと言ひ其押問答があつて容易に決しなかつた。然らば吾々は何ういふ相場でルーブルの値段を極めるか。

我々が滿洲里驛にて國境を越へて露西亞の領土に入つたが其最後の驛で金を替へようとする、日本の一圓出しても一ルーブルは呉れない。日露の談判では日本は三十錢といふのを三十五錢呉れと言ひながら、即ち三十五錢なら大満

足でありながら、シベリヤへ入るときには一圓でもイケない。一圓十錢出さなければ一ルーブルやらないと言ふ。實に不當だ。

所が妙なことにはハルビンでは留は安い。或人が私に「先生、ハルビンで少しルーブルを換へてお出でになりませぬか」と言ふ「ルーブルならシベリヤの露國鐵道内で替へる」「あれは損です。あちらへ行けば一圓出しても一ルーブル呉れませぬが此處でも買ひになれば十錢です」といふ。十錢なら一圓の十分の一であつて、そんな安い物がある筈がないといふ。

「ある筈がないといはれますが、實際にある。又上手に買へば八錢位でも買へます。支那人は上手に取引してゐますと言ふ。私は「一圓十錢のものを八錢で買へるそんなことはない。又實際にありとすれば夫はいゝのですか」と問ふと「悪いことです」と云ふ。「それぢやいかん」と言ふと、「支那人等は其處を巧くやるんです」といふ「いや私は損をしても茲にて不正なことはやらない」とい

ふ。そうすると其處におつた人々は「先生はあんなことを言つて負け惜しみだ」と言ふ奴もあつたが、私はシベリヤへ入つてから、正直に替へたから、損をした。二百圓出したが二百ルーブル呉れない。百八十ルーブルなにがしか呉れない。仍てずるい人と比べて非常に損をした。此事をモスコイで露國通の人に話してどうも理窟に合はぬといふと、其人は「露西亞のことは理窟ぢやいけませぬ。斯うだからあゝなるんだと云ふやうなことを云つてもいけぬ。それから又露西亞の統計表を當てにしてはいけぬ。政府は、勝手次第に自分の都合の好いやうに統計表を作ります。故に露國に對するには其積りでやらねばいけませぬ」と言つた。成程私の僅かの實驗からしても、どうもそうかと思はれる節が多い。

それで私が此の前に露西亞に就て書いた論文を見る目と、之れを覺つてから後に見る目とは、大分見方が違つて來た。初めは此統計表によれば露國の五年

計畫は斯うだ。露西亞政府が斯うなると言つてゐるから、さうかも知れぬなぞと感心したことも止めてしまつた。又此ういふ風に書いてある他人の論文を見て是では駄目だ。斯んな論法にてやつて居るのは、まだ露國の眞情を知らないからだ。書物の上だけで研究するからこうなるのだ。故に此論文は餘程取捨して見ねばならぬと考ふるに至つた。それだけ私は知識を得た積りである。

露國のモスコにては宿屋はルーブルを取らない。宿屋は國營です。國營だから國家の強制通用貨幣たるルーブルを取るのは無論だと思つたが、ルーブルを拂ふとすると取らない。亞米利加の弗で出せと言ふ。弗はなかつたので圓を出す。圓ではいけないといふ。英吉利の磅でどうかといふと磅ならいゝルーブルは絶対にいけないと云ふ。實に妙なことだ。外國貨幣を露西亞のルーブルに替へさせて置いて國營の宿屋は其ルーブルを取らないと云ふことはどうしたことだ。理窟に於ては到底解らない。けれども、露國では理窟を言つたつて駄目だ。

と聞いて置いたから「ハハア是は其一例だ」など直ぐ分つた。

六 露國税關での金取られ

それから露國の國境を出るとき税關にて困つた話は長くなりますから極めて簡単に申します。私等が國境を出でんとするとき税關吏は何かいふ。言葉が少しも解らなかつたが傍らに居つた波蘭人が通譯して呉れた所によると「あなたは此れ丈の金（日本の金にして二百餘圓に當たる）を出せと言ふ。又あなたはルーブルを持つて居るか」といふ。持つて居ると言ふと、「それでは皆んな使つてしまへ。使はなければ取上げてしまふ。故に早く此處で使へ」と言ふ。「使へと言つても使ふ所がないぢやないか」といふと「ないことはない。其處に料理店があるから其所で飲んだらいゝぢやないか」といふ。私はそんな汚い所で澤山酒を飲むのはいやだから、少し子供に残し、大部分は惜氣もなく其處へ捨て

「ハハハハと笑ふと、向ふでもハハハハと笑つた。

そうして何うしても之丈の金を出せ。日本の金ではいけない。弗か磅を出せと言ふ。何故そんな金を出させるのかと隣のポーランド人、其人もやられたのであるが、其人に聴いて見ると其人は「是は出さねばならぬもので私も困つて居る。私は浦鹽で之々の金を儲けて來たが、殆ど全く取られて今は之れしか残らない。折角極東に行つて働き得た金が殆ど無くなつた。實にどうも酷いことをする。而し是は規則だから仕方がないのです」と言ふ。

其規則といふのは外國人が露國へ入つて旅行するときは一日毎に七ルーブル半使はなければならぬ。そこで私は妻を伴れて居つたから二人で一日十五ルーブル使はねばならぬ。一日泊つたら十ルーブル使はなければならぬ。二人泊つたら二十ルーブルになる。さう云ふ風に旅行の費用と泊る費用を二つ合せた何程かの金を使はなければならぬのであるが、夫を使はなかつたと見られたので

ある。税關問ふて曰く「あんたは之々の金額を使つたか」といふから「使つた」と言ふと、「使つた證據を出せ」と言ふ。所が其證據を持たなかつた。物を買つてもさう一々受取を残して置かない。一度夫れを見ると直ぐ捨てる癖があるから、モスコイの宿屋の受取も何も皆捨てた。そこで證據はなくなつたといふ。證據が無ければ使はないと見做す。使ふべきものを使はないから、此處で使はせるのだと言ふ。

夫れにしても勘定が合はない。一日十五ルーブルとして、滿洲里に入つてからモスコイを出るまで七日しかない。さうすると十五ルーブルの七日で百五十七ルーブルになる。一日泊つて二十ルーブルで、合せて百二十五ルーブルになる。そいつを二百ルーブル以上出せといふのだからおかしい。そこで根氣よく争ふと少し負けると言ひ、遂に百八十圓位になつた。それ以上議論を試みると此處は税關だ。そんな議論はモスコイへ戻つてモスコイでやつて呉れと云ふ。ぐず

くすると汽車が出るから、もう斯うなつては仕方ない。嫌や／＼ながら財布を振つて出した。之と同じやうな事は支那の女ドクトルもやられた。税吏に「お前は弗を持つて居るか、見せろ」と言はれて弗を出した。すると皆一度に取つてしまつて、後に餘り可愛想だから是だけやると言つて少部分返した。何も言はないでがつと取つてしまつたのだ。即ち私等からは別に金を出させ、支那人からは何も言はないで取つてしまつたのです。此人にこうするならば彼人にもこうせねばならぬ筈であるが、それでは理窟になる。露西亞では理窟は通らぬ。(歸朝後永井松三次官に聴く所によれば、露國は此規則を廢止した。夫には私の抗議的議論も幾分の力があつたさうだから、私も其犠牲の空しからざるを喜んだ) 遡つていふが私は露西亞で大變高價な寢臺で寝た。五月一日の「メーデー」はモスコイに泊つて翌二日の夜汽車の寢臺を買つた。東京ではツーリストで買つて其儘ずつと行けば宜しいのだが、モスコイで一日泊つたから、翌日新らたに寢臺を買はなければならぬ。

そこで大使館員に頼んで買つて貰つた。愈々モスコイを出ると云ふ夜の九時過或大使館員が私の傍に来て一寸と言ふから「何です」と聞くと、「お二人の寢臺を大使がお買ひになりました。九十七ルーブルお出しになりました。是は大使があなたに言へと仰しやらない。私がお買ひに行つたから申上げる丈であつて其金はお返しにならぬでもいゝのですが」と言つて寢臺券を呉れた。其處で私は送り手の多い。此處で大使に金を返すのは非常にまづいから、其館員に九十七ルーブル渡して、「僕が發つた後で之を大使に渡して下さい。汽車が出るまであなたが預つて置いて下さい。」と言つて出發した。所が此行又偶然にも前記の支那の女ドクトルと同行で後に同病相惑む中になつた。女のいふには斯んな高い寢臺に寝たことはない。四十八ルーブル半取られた」と言ふ。そこで私は「それは當り前です。私等は二人で九十七ルーブル取られたから、一人では四十八ルーブル半になるのだ」といつて此點は露西亞でも理窟に合ふ。偶には理窟に

合ふこともあると思つた。四十八ルーブル半は日本の五十二三圓です。一晚の寢臺五十圓斯んなことはない。そこで又々理窟に合はなくなつて來た。故に今後露國の事を調べるには其積りですることになります。

七 獨逸にては國旗掲揚少なし

露國を去り波蘭を通り、獨逸へ行つた。夫には研究しようと思ふ事があつたからです。私は曾て歐文の「日章國旗論」と云ふ本を書きまして、世界各国の帝王大統領學者政治家等に献呈し、獨逸のヒンデンブルグ大統領にも差上げた。私が抑も日章國旗論を書いた動機の一は、三十四年前に數年間獨逸の伯林に居つて獨逸が非常に國旗を重んずるを見て、大なる刺戟を受けたことでありませう。日本でも人民皆々克く國旗のことを考へて、之を掲揚しなければならぬと言つて、之を盛んに呼號したのである。故に今度獨逸に行つたとき、獨逸では

今どうなつて居るかと思つて調べた。

所が今獨逸には餘り國旗を掲げて居らない。一寸考へれば世界戦争の後國家觀念が旺んになり、人民何れも國旗を掲げて居る譯だのに多く掲げて居ないのはどういふ故だ。前の滞在の時よりも稍減少したと云ふ位ならばまだしもだが極めて少ない。私は伯林の市街をずつと見廻つた。先づ電車で廻る。又電車の行かない所は自動車で廻る。自動車の行かない所は徒歩で廻つた。そうして餘り國旗を掲げてゐないことを確かめた。旗は隠して居る物でなく、掲ぐべきものですから、此調査は樂な調査であります。然らば都會ではいけないが地方では何うかと思つて、地方へ行つたけれども矢張り餘り掲げていない。

そこで是はどういふ譯かと色々の獨逸人に聞きましたが、大抵の人は答へない。困つてお氣の毒だとは思つたが、海軍協會々長のバウア大將に、面會したとき「今獨逸では餘り國旗を掲げないのはどう云ふ譯です」と尋ねました。然

し矢張はつきりしない。獨逸語であつたから瞭きり解らない譯でなく、日本語でやつても解らない様な答だ。「それは其の何ですれども其どう云ふ譯ですかね」といふ答です。此れでは日本語ですら解らないのに、況んや獨逸語に於てをやで逆も要領を得ない。外の話は皆々要領を得て居るから、自分は決して獨逸語が解らない譯でないけれども、是だけは言ふ方が妙なことを言ふのだから解らないのであつて、其處で此方からいゝ加減に切上げた。後誰に聴いても十分の説明を得なかつた。

そこで自分が先づ考を定めて、然る後こういふ譯でないかと聞くと「まあそんなことだ。」と答へる。是は畢竟現在獨逸に於ける國論の統一しない證據である。

然らば現在に於ける獨逸の國旗はどんなものか、獨逸の憲法では國旗の事がしつかり定まつて居る。其地は黒、赤、金になつて居る。此旗が出来たとき獨

逸人が私に批評して呉れと言ふから、私は「お世辭でなくてもいいか」と言つた。「無論お世辭でなくていい」といふ「それでは瞭きり言ふが此國旗はまづい」と言つた。それで獨逸國旗に關して隨分長い論文を書き、其要領を獨逸に送りましたことはあるが、此新國旗は形式上の點からいつても悪い。又精神上的の點からいつても悪い。

形の點から言ふと、黒色と赤色を配列したものは、新らしいときはいいが、少し古くなつたものを少し遠い所から見れば、黒も赤も一緒になる。黒色ははげ、又赤色が黒ずんで、遠方から黒赤は判らないようになってしまふ。それは旗として良くない。旗と云ふものは『旗色鮮明ならざるべからず』此日章國旗の如くならざるべからず。克く此日章旗を見よと言つた。

それから又「金色と云ふものも國旗には良くない。本當の金は今日の國旗に使へるものぢやない。黒赤の布と金屬の金を継ぎ合はすことは出来ない。それ

は出来ないから、金色を布に塗る外ない。處が塗つたものは風にヒラ／＼させると剥げる。故に金は旗の形式上から言つて悪い。尙又金は精神から言つても旗には悪い。抑も金と云ふものは貴重なる高價品だ。所が國旗は金持で贅澤な人だけが持つものでなく、國民が一般に持つべきものである。然るに彼等はそんな高い物を買へない。それに金の國旗を買へといふのは民衆に出来ないことを強ひるのである。昔の帝王時代の時ならばまだしも、金色燦爛とか何とか言つて買はせてもよいが、夫ですら本統は悪い。殊に今や獨逸が共和國になり、デモクラシーになつた時代に、帝政時代にすら善くない物を、人民に強ふると云ふことは全く間違つて居る。

私は此事を獨逸人に話すと、其人は辯解して「それは憲法には金と書いて居るけれども黄でも良い。黄は金に通じ、金は黄に通ずるからだ」といつた。

そこで私は「それは詭辯だ。金は黄と同じ。黄は金と同じと云ふのは詭辯で

ある。尙假に詭辯でないとしても、そんな廻りくどい講釋をしなければ解らない様な國旗は良くない。金を黄だなりと云ふのは胡麻化しである。又其位ならば寧ろ初めから金でなくして黄とし、獨逸國旗の色は黒、赤、黄なりとすればいゝぢやないか。兎に角金はよくないので、此旗には不賛成だ」と言つた。

八 國旗掲揚の少なき理由

併しまあそれでもよいと假定して、獨逸人は此の國旗を餘り揚げて居ない。何故かと云ふと、此共和國を掲げると、ヒットラー一派の國粹黨が之を争ひ、そんな旗は下ろせ。其旗は獨逸が他國に降參した證據でないか。そんな旗をおめ／＼揚げる奴があるか。我々はベルサイユ條約なんかは無視する。又獨逸が戦債を負ふといふが、我々はそんなものを返さない。國民は斯んな旗を立て、はならぬ、といひ、それを引下ろしたり又は亂暴することがある。

私は八年前に獨逸に行つたときはヒットラーは叛逆人、又は國賊、又は馬鹿氣狂と思はれて、諸方を逃げ廻はつて居つたが、彼の黨派は昨年選挙のとき大に増し第一黨の百四十餘名に次いで、百七名の第二黨となつた。其處で何人もヒットラーや彼の國粹黨を眼中に置かなければならぬほどになつた。而して彼等はそれだけの勢力を持って過激的に國粹國權を主張し、共和國の如き旗は下ろせと云ふのである。先づファシストのやうになつて居る。

然らば黑白赤の帝政時代の旗はどうか。國旗として之を掲揚することの悪いことは定つて居る。故に此旗を出すと、共和主義の人々は今更あのやうに帝政を思ふのは怪しからぬ。之を掲ぐるは今の政府に對し、又今の國旗に對する反逆だと云つて之を下ろしに行く。其處でどちらの旗を立ててもやられるから遂にどちらをも出さぬことになる。旅館などもそうである。私は此前はカイザーホテルに泊りましたが、其ホテルは往々帝政時代の旗を樹てる。今度はアドロン

ホテルに泊りましたが、其ホテルは今の共和旗を樹てる。さうすると黨人等は兩方共に下ろしに行つて喧嘩するやうな有様であります。

私は端なくも趣意に於て能く之に似て居ることを上海で見た。數年前上海へ行つたときは、北方に張作霖が居つて、其部將孫傳芳をして南上海に下りて南を押へ付けやうとし、之に對し南京の方から蔣介石が中華民國を樹てようとして上海に向け來りて、戦争をした時である。私はそれを見に行つたのであるが、惜しいことに昨日やつたと云ふ翌日に着いた。其時海軍の陸戦隊には司令の植松大佐が居つて、「先生、昨日支那兵の武裝解除をやりました。此處で押へて此處でどうして」説明をして呉れた。又諸方を見物さして呉れた。

夫で上海の市中をずつと歩いたが、其時旗を見ると北方の五色の旗を揚げて居る家もあれば、又南方の青天白日旗を揚げて居る家もある。彼等は北方の張作霖の勢が偉くなつて來ると北方の五色の旗を揚げ、又南の蔣介石が強いとそ

れを下ろして青天白旗日を揚げるのである。だから各二本の旗を持つて居て天氣模様によつて、或は北方或は南方の旗を揚げるのである。

そういふやうに二つの旗を持つて妙なことをやる支那人と、一つの旗を持つて居つても之を樹てない獨逸人とのコントラストは甚だ面白いと思つたので、又之に依つて支那の國民性と獨逸の國民性が解ると思つた。

獨逸の國旗掲揚の模様を最も著るしく感じたのは、ヒンデンブルグ大統領がキイルへ行つたとき、同行した際である。彼は有名なる豆戦闘艦ドイチュラン
ド號を下ろす爲めと、又大統領になつて以來初めて訪問する爲めにキイル、軍港へ行つた。初めてのキイル市訪問と云ふので市では盛に歓迎した。而して斯う云ふ旗（博士は旗を示さる）即ち赤で上下兩方を塗り、中間を白にして其中
央にヒンデルブルグの肖像を畫いてある旗を盛んに出して居る。所が國旗は餘り出して居ない。唯海軍鎮守府にあるのみだ。此建物には海軍兵學校もありま

してキイル市では一番の官衙と言つてよい。其處には大統領を迎へる爲に新憲法に基く新國旗を掲げて居つた。所が其隣に金持の大きな家があるが、夫れが皮肉にも帝政時代の舊國旗を樹て、居つた。

獨逸の國旗掲揚の模様はザツト此の如しであるが、政府は之をどう考へて居るのか、大統領はどう考へて居るか。察する所どうも政府も、ヒンデンブルグ大統領も、人民の或者が帝政時代の旗を樹て、居ることを、極々嫌つてもゐない様子と見られた。旗を以て政府に反抗するものを撲滅する精神だとも言つて居ない様子だ。政府者の或者は此事を口では困ると言つてをりながら、心ではそうは思はない。却つてあいつ等にはそれだけの愛國的意氣があると思つて居るらしい。共和黨の多くの人がヒンデンブルグの如き軍閥の巨頭を大統領に推して今では往々彼を終身大統領にしようと云ふ程であり、ヒンデンブルグ自らも時々軍服を着てやつて居るのだから或は心と口とは多少違ふのかも知れ

ない。従て獨逸に舊帝政時代の三色旗が増すのであらうと思はれる。獨逸には段々昔の帝政時代の軍閥主義、及び人民の階級制度が戻つて來るやうである。段々戻つて獨逸が良くなるようだから、決して急にとは云はないが、事に依つたら遠き將來獨逸は又々帝國になりはしないか。近き將來でも心は帝國主義になつてしつかりやる様な感じが起つた。

九 獨逸の財政と總理大臣ブリューニング博士

獨逸の財政經濟のお話は別の機會に譲りますが、唯英吉利に於ける獨逸救済の七大國會議に關して、一寸獨逸の財政及び首相ブリューニングの人格のことをお話します。

此會議のとき會議地たる倫敦に居つて西洋人にも日本人にも會議のことを聞いた。昨日の模様はどうだとか、今日の様様がどうだと時々刻々に其様子を聞いて居りました。たしか七月二十一日のことであつたか、或日本人は「會議もどうやら二十三日に濟みさうです。昨日の會議に於ける獨逸首相ブルーニングの演説は餘程利いた。あれで一體の空氣は餘程良うなりました。」といふ。それはどう云ふことかと聞くと、ブルーニングは斯う云ふことを言つた。といつて其主意を述べた。首相の言左の如しである。

此度は獨逸窮狀救済の爲め皆様に色々お世話になつて相濟みませぬ。どうか我々の願ふことを聞いて下さい。今我々の申すことを聞いて下さらないと、私共は國へ歸つて、非常に國粹黨其他の者に攻められます。國粹連中が盛んに我々を攻撃し政府者は何故あんなことをして歸つて來たとやります。又私共はコムミニズムからもやられます。それで若し皆様が我々の要求することを聞いて下さらないと、我々は迎も内閣を維持して行けないから無論辭職します。我々が辭職すれば左のコムミニズムと右の國粹主義者が必ず正面衝突をやるに定つ

て居ります。さうすると革命が起る獨逸に革命が起つたなら、近隣のベルギーが直ぐ影響を受け佛蘭西も之を受けるでせう。又オーストリアにも無論影響を與へるさうすると遂に歐羅巴全體の大革命になる。故にさう云ふことをお考になつて、どうか獨逸請求案の通りにお願します」

と言つた。それが若しブルーニングの如き人格者でなかつたならば、却て不利益だ。何だ自分の國を助けて貰ひたいといふのに、夫を助けて呉れねばあなた方の國に革命が起る。私の國を助けるのはそれを防ぐ爲だなどと怪しからぬ事をいふ。人を脅かして居る。そこで俺は救助に賛成してやらうと思つて居つたが、あゝ言はれたから反對すると言ふこととならんと、言ふ人がブルーニングの如き人格者だから此言は大に好結果を齎らした。

ブルーニングといふ人は専心國を思ひ、又人類のことを思ひ、彼の言ふことは凡て肺肝より出でその人に迫る思ひがある。故に聽いて居る人は皆んな感心

して尤もの事だと思つた。ブルーニングの事を聞いて見ると、彼は非常に質素儉約で金を欲しがらず、権力も欲しがらずたかぶりもしない。氣取りもしないで誠心誠意の人ださうです。昨年あたりは自分から二割の俸給減額を申込むだ外の人はとにかく、せめて私だけは減俸して貰ひたいと云つて、それで外の人も亦同じやうに二割引いて呉れといつた。ブルーニングの俸給が二割引となつたが、彼は時々内閣の會計課に金を持參し來り、國庫から彼の月給を貰つたが儉約したら今月是だけ餘つたからお返しすると、月々餘つただけを持つて來るので、會計吏も甚だ迷惑をしたといふことである。それは無論會計が迷惑するであらう。而しブ氏は夫を人に誇るのではなく真に心からさういふ風にやつて居るので、獨逸人も多に恐れ入つて居る。根がさう云ふ人であるから今度あゝいふことを言ふも皆々成程と思つて、獨逸を助くることに傾いたのであります。私は彼に會ひませぬが聞いて見ると、如何にも溫厚な立派な人ださうです。

偶然のことに羅馬のグランドホテルで同宿した。グランドホテルに泊つて居ると其晩巡査がホテルの前に居るので、フハシストでも何かやつたのかと主人に聞くと、「獨逸總理大臣ブリュニングが外務大臣クルチウスを伴れて泊つて居るのです。お逢ひになるのならお取次ませう」といふ。「いや別に用はない。強いて忙しいお方にお目に掛るのはお氣の毒だからやめる。唯日本の斯う云ふ人が同宿して居ると宜しく傳へて呉ればよい」と言つた。其序に首相はどう云ふ生活をして居るかと聞くと非常に質素で、私共の泊りと同じやうだといふ。そこで、私は去年のことを思ひ出した。去年神戸で大觀艦式があつたとき西常盤に泊つたが、濱口首相も矢張り西常盤に泊られた。其時巡査が玄關前に澤山來て居りました。ああいふ事件が間もなく後にあつた時ですから、警戒は嚴重だが其他は同じことです。濱口首相は質素で大抵吾々と同じ事です。同じ物を食ひ同じ湯に入り、茶代が少し多かつた位のことである。そこで私は昨年濱口君

と同宿し、今年はブリュニングと同宿したことを愉快に思ひ、どちらも人格の高い人だと思ひ、ブリュニングは今まで聞いて居つた通り、果して誠心誠意の人であることを知り、獨逸の内閣は彼の人だから持つのだと思つた。あの人が居ないで誰かに變つたときにはどうなるだらうとも心配した。若し彼が辭職して獨逸にある種の變動起る時ヒンデンブルグがウンと偉力を出して、帝國主義を行ふやうになりはせぬかと思ひ、獨逸の將來は可成り案せられる。

一〇 英國と不景氣と失業問題

次で佛蘭西の事になりますが、同國のことは餘り長く申しませぬ。佛蘭西では文部大臣ロースタン氏に逢つて、學校のことや教育のことや、藝術のことなどを聞きました。而し斯う云ふことは此處でお話するのは止めます。

後に英吉利に行きました。日本から英吉利へ行つたのは之で三度目で歐羅巴

大陸から行つたのを混ぜると五六度になる。故に、英吉利のことは一寸見ただけで大抵は解る。英吉利は大變に不景氣で、多くの問題が生じ中にも最も困難なるは失業問題であつた。之が爲めに内閣が替つた其事を歸りの船の上で聞いたが、七月には替らなかつた。而し其時から既に失業問題で行詰まり、それを切抜かねば英吉利の財政は持たない様子であつた。スノーデンが私の友人に言つたには「どうも労働黨の失業政策は失策であつた。労働者に金をやつて遊ばして置くことは困つたことだ」と言つたそうだが、私はスノーデンか確かにさう言つたと信じ、今度の内閣員更迭を見て益々之を信ずることになつた。今度の政變に首相マクドナルドを助けた労働黨員はスノーデン一人位の者だ。他は皆反對し、ヘンダーソンを首領として分れてしまつた。そうして失業者にやる金を減らしてはいけないと言ふ。夫をマクドナルドと彼を助けるスノーデンとはどうしても失業者に與へる金額を少くしよう。然らざれば英吉利の國家が立

ち行かぬ。詰り從來の失業政策は失敗であつたといつた。

マクドナルド等の労働黨の有力者は失業者のことを非常に心配して、其救済に骨を折て居る。又其骨を折て居ることを見せようとし、是には色々の手段を採つて居る。其中で私が偶然見たことは、辻の立札のことである。

私はロンドンではハイドパークホテルに泊つて居つたが、此ホテルから他所に行くときハイドパークコーナー(隅)を通ほる。五つ辻であつて其處には交通巡査が自動車を止める。止められて退窟だからあちら此方を眺めて居る中、其端で地下鐵道の停車場を拵へて居る工事を見て、あゝ此邊にも停車場が出来るのかと思つた。三度目に此處を通るとき其處に立札があるのを見付けた。何と書いてあるかとゆつくり見たが「失業者の爲に此工事を起すものなり」と書いてある。あゝさうか、此工事は失業者救済の爲めにやつて居るのだなと思つた。併し立札に失業者を救済すと書いてあるので、工事に従事する人を見て氣の毒に

なつた。此文句を見てどうも氣の毒だ。彼等は失業者だと思ふ中に、此んなことは書かなくとも良いのにと思つた。同じ物をやるにしても、お前は乞食だからやるといはれては甚だ不愉快であらう。人はいはれなく物を貰ひながらも乞食と言はれたくはない。それが人情だ。夫れと失業者に仕事を與へるのは素より結構だが、此ういふことを書く事は、私共の考から云ふと、どうも嫌な氣がする。夫れとも英吉利人には何ともないのか。其處は東西の感情の差だから解らないが私には面白くない。一たび此立札を見たから、後注意して見ると此んな立札は澤山ある。何れも哀れを催ほした。日本ならば斯んなことは書かない。又こんなことを書けば、労働者自身が之を抛つてしまふであらうが、英國人は洵に素直な國民だと思つた。

然らば英國にては何故此の如きことをするかといふに、之は政府が是ほどまでに失業救済のことに注意して居る。此工事を見よ。皆失業者の爲に設けた仕

事だ。是が政府が苦心して居る何よりの證據だと見せて居るのである。斯う云ふ立札を日本でも出す方がいゝか、或は出さない方がいゝかは問題であつて、決して日本にても此方法を直ぐ採用すべしと云ふのではない。唯そんな事實が英國にあると云ふのだけでありませう。或は労働黨政府は是だけ骨を折つて居ると云ふことを見せて、社會の同情を得んとして居るのではないか。

一 一 バツキングガム宮廷園遊會

之れともう一つお話しすることは英吉利の風俗のことである。

ずつと前は英國では風俗のことは非常に喧しかつた。私共の學生のときには學生でありながらシルクハットにモーニングで、學校へ通つた何處へ行くにも此盛裝で行く。唯妙なことに偉い人、大臣とか、總裁とか大使公使等は山高で行くことがある。私は加藤高明公使と軍艦淺間の進水式に行つたとき、皆ん

なシルクハットにモーニングであつたが、加藤さん丈は山高である。そこで私は「皆んなシルクハットにモーニングであるのに、あなただけ山高ではおかしい。」と言ふと、加藤さんは「吾々になつたら此れでいゝのだ」といふ。其所まで行けば山高でいゝのだといふから私も早く山高が冠る様になりたいたいと思つた。偉くなればそれでいゝが、外の者はさうはできないで、シルクハットにモーニングに定つて居る。

夫れが世界戦争の終つた後に行つて見ると、シルクは皆なくなつて中折でなければならぬやうになつてをわつた偶まにシルクハットで居ると「あいつは何だ」と言はれた。然るに今度行つて見るに、シルクは少し増して百人の中十人位は、シルクを被ぶり又フロックかモーニングで手に手袋を持つて居る。夫れを見て私は大分こいつは戻つたと思つた。

それから又女の着物は八年前に行つたときは、非常に短かつたが、今度は大

分長くなりかけて居る。皇后陛下は初めから短いのはお嫌ひであらせられたそうです。一般の婦人も此度は大分長い着物になつて來た。勿論街ではまだ澤山、短いのを見ますけれども、松平君に會つたら、着物殊に上流社會の着物は英國の皇帝皇后兩陛下の御催ほしになつた。「ガーンバーチイ」に行つて克く見た。此園遊會は日本で言へば、觀櫻又は觀菊の御宴の様なもので、之に御召を蒙つて行くのは光榮の次第です。私はずつと前に倫敦に居つたときは學生であつたから駄目だつたが今度は妻と共に行くことになつた。

此會は七月二十三日にあるのですが、此日の午前に喧しい七大國の獨逸財政救濟會議が終つた。夫が終つて間もなくお開きになつた。會議が終れば獨相ブリュニングは直ぐ歸るといふ。獨逸の内政は彼にとつて一日も忽せにして居られないから、直ぐ歸ると云ふのは無理はない。そこで、豫定の時刻を少し繰上げて園遊會を早く開くことになつたのである。此園遊會には宮中よりはキ

ング、クイーン、クラウンプリンス(皇太子)、皇太子は獨身で居られるから御一人其次の皇子は妃があるから二人、其次の皇子は獨身で居られるから御一人にして、英國の皇帝陛下直系の皇族は皆揃ひになり、其他に澤山の傍系皇族が居られる。それから英國の總理大臣を始め副大臣は言ふまでもなく來り外に佛蘭西の總理大臣ラバルヤ、外務大臣ブリアン、獨逸の總理大臣ブリュニングや外務大臣クルチウス、ベルギーの總理大臣其他の大臣來り大抵の國の總理大臣が居る。亞米利加の大官は總理大臣と言へないが之に當たる國務卿スチムソンが居るといふ譯で、總理大臣連中がこれほど多く集つたことは近來珍らしいことであつた。

そこで、私は其等の人々の舉動を見て居つた。實は何かの時に詳しく之を見たいと思つて居つたから此機を逸せず注視したのである。

先づ以て君主國の總理大臣と共和國の總理大臣の舉動はどう違ふかそれから

同じ共和國でも嘗ては君主國であつた國の總理大臣と、一度も君主國になつたことのない國の總理大臣とはどう違ふかと云ふことを見、殊に米國のスチムソンの舉動は之を能く見て居つた。それは嘗て斯う云ふことがあつたからです。

世界戦争後の講和會議のとき米國大統領ウイルソンは妻君を伴れて英吉利へ行つたり、巴里へ行つたりして所々から色々優待を受けた。其時英吉利人が評しどうもウイルソン夫人は禮儀を知らないで困る。殊に皇后陛下に對する行動に遺憾の點があると言つたといふことを聞いて居る。夫に對しウイルソン夫人は自分は當り前のことをやつて居るのである。私は英吉利の臣民とは違ふ。又英吉利ではクイーンが自國にて一番偉い方のワイフであり、私は亞米利加で一番偉い大統領のワイフだ。そこでワイフとワイフは同等であつて自分は英國元首のワイフのお客さんであるから主人公等が私を町重にするのは當り前である」と言つたさうだと聞いて居る。夫れで私はウイルソン夫人といふ人はどん

な人だか見たいと思つて居りました。所が彼女が後家さんになつてから東京へやつて来た。之に對し徳川家達さん夫婦が華族會館に茶話會を催して、吾々夫婦にも來いと言はれたから、斯んなとき同夫人を見ようと思ひ招待に應じて行き首尾克く彼女を見ましたが、そんなに無禮な人でない。尤も後家になつてから多少弱つたのかも知れないが、其所までは私に解りませぬ。兎に角そんな悪い人ぢやないと思つた。

そこで今度はスチムソンである。が此園遊會に於て諸國の大臣等がキングとクイーンの間にあつてどう云ふ風に敬禮するかを考へ、殊に亞米利加のスチムソンはどうするかをウンと注意して見た。其結果種々の資料を得たが。其事は又別の機會に於て特別にお話することにする。

序に皇族方を始め貴婦人等の着物や持物を注意して見た。亞米利加人がどうだ、英吉利人がどうだ、佛蘭西人はどうだ、諸國の人が居るから種々のことが

見られる。其處で自分の妻の着物や持物はどうだ。

七月二十三日の園遊會の開かるる三日前の二十日に私の宅に松平大使夫人の使として藤井一等書記官の奥さんが來られて、「奥様も二十三日にお出でになりますか」「行きます」「奥様の御服装はどう云ふ風になさるか」松平さんの奥様が御心配になつて、自分が御相談に出るべきだが、少し忙がしいからお前行つて來いと言はれましたから私が來ました。」と言はれる。妻は無口だから私が代つて洋服が無いのです。今日から二十三日まで僅か三日位しか日がないから連も着物は出來ないと云ふのぢやないのです。こう云ふ時には大抵日がないから作れませんか云ふのは通常ですが、私はそんな逃げ口上は言はない。何故かと言ふと今、英國皇帝陛下の園遊會に出る着物を今拵へても、夫れは日本の觀菊會には役に立たない。又日本にての訪問着にもならない。やると云つても貰ひ手はない。然らば此次英吉利に來るときの用意に貯へ置かんか。流行が變るか

らだめです。其處で甚だ畏多い事だけれども一度の園遊會の爲めに千圓もする着物は拵へられない」と云ひ尙進で此んなことを言つた。私は妻の參園服は日本服でいゝだらうと思ふ。私は英吉利の皇族のお出になる會に於て印度人が印度服を着て居たのを見た。それから又或大きな皇族台臨の會(陛下も臨御)にて支那人が支那服を着て居つたのを見た。然らば日本人は日本服でいゝかと思ひます。殊に日本に於て觀櫻觀菊の御宴に參入する服装ならば宜しからうと思ふ。西洋人は西洋の服装で行く。洵にいゝことだと思ひます。併しながら私は斯う云ふ場合に於ける英吉利の風俗を知らず、殊に宮廷のことは知りませぬから、英國皇室に御不禮があつたり、又日本や外國の皆様は御迷惑を掛けては相濟まぬ譯ですからどうぞ宜しく御考を願ひます。是は私の理窟上の考だけを申しただけです。若し日本服で悪ければ妻は行かぬことにします。妻が行かぬば私も行かないとは申しません。私は禮服を持つて居ますから行きます。但しシルク

ハットは持つて居ないからどうか藤井君のをお貸し下さいと云つた。藤井夫人は歸つて相談した結果、日本服でも宜しうございませう。唯足が見えるやうではいけませぬから、其點だけは御注意願ひたいと云ふことであつた。足位隠すのは何でもない。靴下があるから極めて簡單である。そこで我々兩人立派な服装を爲し、齋藤參事官夫妻に伴れてバッキンガム宮殿に入り、其中を通過て後庭の園遊會場に入つた。其時英國皇室の式部官連は變な顔をして居つた。變な顔したのは妻の着物が悪いと云ふのでなく、誠に珍らしき奥ゆかしき、着物だと思つて居つたのだらうと自惚れて行つた。こうして首尾良くバッキンガムパレスに入りましたが、之れは恐らくは英吉利の兩陛下のガイズンパーティに日本服で行つた始めであらうかと思ひます。御園に入つた時茂木莊兵衛と云ふ、あの横濱の茂木君が居つた。之れは珍らしい所でお目に掛るといふと、勞働内閣のことですから、私等をも呼んで呉れたのでしようと云はれ、夫で偶然のこ

とがら此園遊會の客筋が分つた。あゝ成程と思つた。客は内閣に依て異なるので保守黨内閣の時のお客さんと、労働黨内閣の時のお客さんは違ふのだ。茂木君は八年程英國に居るが保守黨の時には招かれずして、労働黨内閣の時に招かれる。察するに茂木君は労働問題を研究して居るからだと思像した。

園内を見廻はすと印度人の男は印度の鉢巻をやつて居る。女は風呂敷のやうなものをも肩や腰に巻いて居る。そうすれば日本人は優美なる日本服でいゝぢやないか。此時私が特に考へたことはガンヂーのことである。當時問題になつてゐたことは印度の聖雄ガンヂーが圓卓會議の爲めに英國に來るか來ないか。又來る時に洋服で來るか。或は跣足で足を出して來るか足を出して來れば英國の社會が夫れを許すか許さないかの問題である。私は其時自分の妻が日本服でやれたから、ガンヂーもあれでやれるだらう。あんな強情な人だから、裸足で通すだらうと思つて居つた。(後に聞けば彼は裸足で通ほし英國の社會も之を認

めた)其時に背廣の人もあつたが、是には驚いた。お召狀にシルクハットに、フロックコート(モーニングは許す)とあるのに背廣とは驚いた。そんな人が二三人あつたので亞米利加人かとも思つた。蓋し亞米利加人は随分無鐵砲をやるが故なり。然るに其人々と話をして見ると何れも案外おとなしい英吉利の紳士である。恐らくは労働黨員でありませう。さう云ふことを見ますると英吉利の服装は今非常に寛大になつて居ることが解ります。

(附加) 日本と歐洲の鐵道

先づ歐洲視察談は大體之れ位に致しまして、終に一寸鐵道のことについて感じたことを申します。

汽車の發着時間のことには就ては、日本の鐵道は以前とすつかり變つて善くなつたやうに思ふ。以前我々は西洋では汽車の發着時間はきつちりして居るが、

日本ではダラ／＼で困ると言ふが、今では夫れが全く反對となり日本ではきつちりして居るのに歐羅巴ではダラ／＼して居る。随分いゝ鐵道の汽車でも遅れる。私はベルギーのブラツセルから佛蘭西のバリへとか又、巴里からカレー、ドーバーを経て英吉利へとか往來し、其他諸所を行つたり戻つたりして経験したことであるが、多くの汽車は大抵五分なり十分なり遅れ、甚だしきは三十分も遅れ、又遺憾なことにはエクスプレスさへ遅れることがある。唯一完全にいつたと思つたのは倫敦からセーキスピアの生地スツラットフォード、アツボンエボンに行く、セーキスピアエクスプレスといふ沙翁特別列車と名づくるものであつて、夫はきちんと言つた。併し歸る時に普通の汽車に乗つたが三十五六分も遅れた。

そこで西洋人に對し「我々日本では曾て君の國の時間は正確だと言つて、之を賞へ堂々之を眞似て今正確にやつて居るが、君の國では今どうして斯うだら／＼するのだといふ」すると「世界戦争の時までは良かったが、戦争の時から斯うなつたのだ」と答へる。「戦争が濟んでから何年になると思ふか。我々日本では世界戦争後大地震があり、其後まだ八年にしかならないのに大抵のことは復舊して汽車も正確にやつて居るぜ」と云つた。それから鐵道がもう一つ勝て居る點は停車驛名の鮮明なることである。歐洲では相變らず英吉利でも佛蘭西でも停車驛に廣告が多い。どの停車場を見ても廣告で一杯で、どれが驛の名か解らなない。之に反し日本は感心に廣告などをさせない。驛のプラットホームには横濱なれば横濱、濱松ならば濱松と、驛名札だけを立ててあるから一見明知し得られ實に心持がいい。これには西洋人も感心して居るだらうと思ふ。尙もう一つの汽車速力のことであるが、餘程以前に何時か當時の運輸局長中川君にお目に掛つた時、廣軌、狹軌の話をして鐵道が廣軌でなければ汽車が速くならないかと言ひ聞いた。すると中川君は現在のものを改良すれば狹軌でやれると言はれた。そう

言はれても廣軌でなければいけないやうに思つて居つたが、やり方に依つてやれると言はれた通り、其時には東京、大阪間が二十時間か十八時間であつたものが段々と十五時間になり、十三時間になり、十二時間になり十時間になり、遂には最急七時間まで行き、當時話したときの時間の半分以下になつた。日本も餘程進んだものです。

唯一つ日本にないものがある。夫れは巴里から倫敦に行くエキस्प्रेसの様な愉快な列車である。此車から外の草を見て居ると、草が見へない。立つて居る草が皆横に見え、槍の如くに見え、一尺の車が六尺位に見へる。そんな筈はないと思つてぐつと見てもやつぱりさう見へる。汽車の速いせである。それが日本の汽車から外を見れば立つて居る草が皆立つて居ると見へる。大抵は草の端まで見える。之が巴里から倫敦へ行く汽車になると餘程氣を付けても草の莖すら見へない。草が皆さつと横に寝たやうに見へる。日本にはそんなに速い

ものがありますか。時間のはつきりした點と驛名の鮮明なる點は勝つて居るが、速力では未だどうかと思はれる。

尙ほ交通關係のことではマルセイユ港や倫敦港や、アントワープ港を見て來ましたが、是は他日も話致すことに致します。(了)

昭和六年十二月十五日印刷
昭和六年十二月二十日發行

〔非賣品〕

無斷
不許
轉載

編輯人兼代表笠松慎太郎

東京市京橋區京橋二丁目二番地

印刷人 下石幸也

東京市京橋區京橋二丁目二番地

印刷所 大久印刷合資會社

發兌所

東京市丸ノ内郵船ビル内
日本交通協會

電話丸ノ内 二一九一
振替東京 二一三六七

終

東京丸の内・郵船ビル内
日本交通協會發行

◆ 四六版三百八十頁裝訂布函入美本 ◆
定價金壹圓五拾錢・送料拾錢

交通事業の經營

航空	外國	水上	運送	海運	電氣	國有	倉庫	電送	自動車
事業	交通	小運	事業	事業	事業	事業	事業	事業	事業
の經營	事業	送の經營	の經營	の經營	の經營	の經營	の經營	の經營	の經營
……	……	……	……	……	……	……	……	……	……
日本航空輸送大阪支所長	前東京市電氣局長	官島租社長	前國道次官	大阪商船株式社長	阪神電氣株式社長	神戸運輸事務局長	住友倉庫常務	大阪通債局長	大阪市電氣局運輸部長
服部 寛	高野 吉	中川 正	村上 省	八田 忠	山本 五	山本 五	山本 五	山本 五	山本 五
郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎	郎 郎

投 替 ・ 東 京
二 一 三 六 七 番